

上田市公文書館だより / 第8号

■公文書館から

もう一度・アーキビスト (Archivist) について

■国立公文書館では、初となるアーキビスト認証の実施結果を公表しました。アーキビストは、公文書館などアーカイブズ(注)に働く専門職員で、役所等で作成される膨大な公文書や記録から、後世に残すべき価値のあるものを評価・選別し、その利用を保证する重要な役割を担います。■今回、全国から248名が応募し、190名が国立公文書館の認証を受け、県内でも公文書館勤務者など6名の方が認証を受けました。認証の基本的要件としては、一定以上の「専門知識・技能及び倫理観」「実務経験」「調査・研究能力」が求められています。■残すべき重要かつ貴重な文書・記録の見極めやそれらの廃棄回避に、認証アーキビストの力が存分に発揮されることを期待します。最近、公文書館、文書館の設立が地方でも進んでおり、活躍の場が増えつつあります。今のところ上田市公文書館にはおりませんが、近い将来には配置されることでしょう。(土屋)

(注) アーカイブズ：組織または個人がその活動に伴って生み出す記録のうち、重要なものを将来のために保存する施設であり、同時に資料そのものも指す。(東京大学総合研究博物館ニュース Vol. 18/No. 1 から)

■公文書館の催し ※マスク着用でご参加を。新型コロナ状況により中止または延期あり。

◎企画展示「大正時代の上田とスペイン風邪の流行」開催中

内 容：上田市公報(上田橋竣工開通式・上田市民大学)、議会資料の流行性感冒記録など

期 間：令和3年3月14日(日)まで・公文書館ロビーにて

説明会：3月6日(土) ※午前・午後時間指定の予約制・公文書館まで電話かメールでお申込みを。



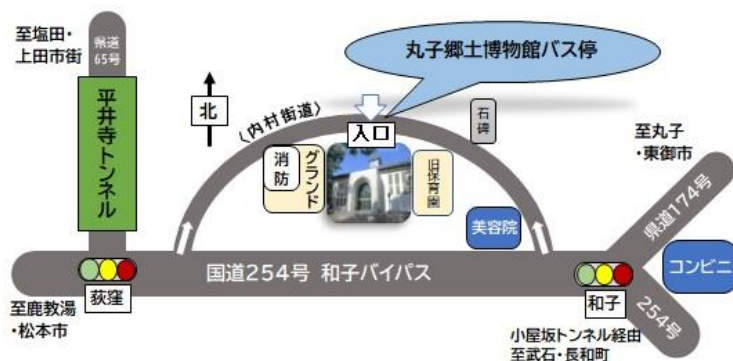
◎第3回公文書館講座の開催

テーマ：公文書館所蔵の旧町村文書目録から見えるもの 講師：児玉卓文さん(上田市博物館協議会会長)

期 日：令和3年3月14日(日) ①PM1:00から ②PM2:30から

申込み：2月25日(木)から公文書館へ電話かメールで。①、②とも同内容。各回とも定員6人。

■公文書館のご案内



■住所・電話

〒386-0413 長野県上田市東内 2564-1

TEL0268 (75) 6682 FAX0268 (75) 6683

■メール

kobunshokan@city.ueda.nagano.jp

■ホームページ

上田市ホームページ内を公文書館で検索

「上田市公報の上田市民大学記事」 大正一三年（一九二四）



大正時代の上田市役所

●大正一三年一〇月一五日付の『上田市公報』の「上田市民大学」の項には次の記述があります。「勝俣英吉郎、大熊政五郎両氏設立・主催となり、市民一般の教育機関として上田市民大学を設立し、第一回を九月二十一日より二十九日まで九日間毎日、午後七時より二時間宛市役所楼上において開催せり」とあり、市民大学設立・開催を知らせています。●続いて「講師 上田中学校教師 藤澤直枝、講題 郷土史、会員種別 正会員三〇名、臨時会員四三名、賛助会員二名、その他八名、合計八三名（以下略）」とあり、九日間毎日、夜間二時間ずつ市役所で郷土史の講座を開催した旨、記しています。●勝俣氏は、細川吉次郎初代市長の死去により、大正一三年七月から市長を務めました。藩医の家に生まれ、医師として活動し、県医師会長、県会議員、市会議長などを経て市長に就任しました。勝俣市長は市会議員時代に上田自由大学で学び、生涯学習の必要性を感じており、市役所内に事務局を置いて市民大学を開催しました。講座は歴史・哲学・文学・語学・法学・政治・経済・衛生・病氣・科学・工学など多方面にわたり、昭和七年まで続けました。●勝俣市長は教育・文化・福祉事業を積極的に推進し、市民大学の開講、市史の編纂事業、盲学校の開校、陸上競技場・野球場・庭球場の建設、上田公園の整備、図書館の充実、上田徴古館（市立博物館前身）の開館などの諸事業を進めました。（倉澤）



勝俣英吉郎上田市長

■公文書館の利用

※公文書館は入場無料、郷土博物館展示室は有料（大人 100 円）

- 資料検索：目録検索システムをご利用ください。
- 閲覧申込：所定用紙でお申込みください。メール、ファックスでも可能です。ただし、一度に5点まで。
- 資料閲覧：個人情報審査終了後に閲覧可否を連絡します。館内閲覧室でご覧いただきます。館外貸出しは行いません。



※審査に時間を要する場合があります。また、個人情報が含まれる資料は閲覧できない場合があります。目録検索システムの利用・閲覧申込書ダウンロードは上田市ホームページ内の公文書館ページからどうぞ。